京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十三年 紀元二千五百七十年

本紙定價 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵稅一ヶ月十三錢

月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）

廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢

發行兼編輯人 高木久馬太郎

印刷人 松久神一郎

京城西署西小門通（電話六六三）

發行所 京城新報社

國士金玉均氏（二）

▲金玉均氏亡命の顚末 ▲刺客池運永が渡る

國王は我公使の上奏を聞き皆しと宜ひて起たんとし給ふ時事變以來此時まで日夜國王の左右に奉侍したる金玉均、朴泳孝、徐光範の三人は王に奏して曰く臣等事を謀るに其當を失し爲めに淸兵に攻められ親軍には叛逆され終に此の勢は迫れり臣等固より殿下の行幸に扈從し一死以て君恩に報せんと欲す然かも今は其時にあらざるを以て且く辱を忍び命を惜み忍耐以て後圖を爲さんとす故に隨政洪英植を留めて供奉警衛の任に當らしめ臣等は賜暇を請ひ身を隱して亂の平定するを待たんと是に於て王は今は朕と離るも死處を知る能はず抑も汝等何處に往て身の安全を謀らんとするやと宣へば金等は之れに對へて洪英植にして供奉し參らする限りは幾万の淸兵來るとも決して危險の事なかるべく殿下の世に在す限り臣等は如何なる辛酸を嘗むるも身を全ふして他日の奉公を期すと奏上すれば國王の御顏曇りて見ゐ給ふ金等も淚に咽び王の御前を拜辭すれば王は侍臣を從へ後門より走り出で給ひ我公使は護衛の事全く畢りたるを以て淸兵の重圍を潰し中署校洞なる公使館に引揚げたり。斯くて金玉均は王宮の後庭に於て國王の左右を拜辭し今は其身を容るゝの地無きより朴泳孝と共に擾亂の中に紛れて辛くも城外に遁れ出で日本に渡りて東京に上り岩田周策（又は岩田秋作）と變名し五根頭阿と稱し或は禪書を繙き或は筆墨を弄び又は圍碁を樂ひなど殆んど世事を忘れし如く最も閑靜なる月日を送りけるが反對黨の世となれる本國政府にては金玉均の日本に在るは恰も虎を野に放てるが如しと爲し殺害して他日の憂を除かんと欲し十八年二月事ありて日本に派遣したる際金玉均引渡しの事を日本政府に請求し拒絶せられしが茲に朝鮮國軍事衙門主事池運永と稱する者あり金玉均を刺殺すべく國王の密旨を奉ずと僞はり明治十九年五月密かに日本に渡來せしが先是韓人張般奎なる者日本に來り神戸に寄寓せしが其の渡來の目的に至りては之れを知る者無く只だ身分に應せざる金錢を消費すると其の擧動の怪しげなるより或は閔族の內意を承けて金玉均を闇殺せんとするものに非らずやと疑はれ其風說傳はりければ金玉均等は只管警戒を加へ居る折しも池運永の渡來を聞き猶も注意を怠らざりき

兩運河と東洋海運

（通過料と距離短縮）

中米ニカラガ運河即ち巴奈馬地峽の開鑿竣成と太平洋の海運及び軍事上の關係に就ては世界の列强殊に太平洋岸列國の共に注目考究しつゝある問題なるが本邦、南滿、濠州、比律賓等の海軍事業は特に直接の影響を受くべきものなれば我遞信當局に於ても之に關する各般の調査を遂げつゝありと云ふが今該地峽運河と蘇士運河との關係に就て聞くに來る四十七年開通すべき巴奈馬運河は工費三億七千五百万弗竣工後の設備費二百卅六万弗の豫算に對し一箇年の通過船舶の總噸數を四百〇七万四千八百噸通過貨物の總量を六百七十万二千五百噸と採算し之れを年利六朱と見積るに於ては通過料は一噸一弗十五仙內外を以て足るべく之れを現在蘇士運河の通過料一噸七フラン五十サンチーム（或は既に五十サンチーム値下げせりとも聞く）に對比すれば前者は邦貨二圓三十錢見當なるに對し後者は三圓となり其差實に七十錢前後に相當するのみならず東洋と太西洋岸紐育との航程は巴奈馬經由に於て蘇士經由に比し橫濱紐育間は三千七百哩、上海紐育間に於て一千六百哩を短縮するの利益あるを以て勞々蘇士運河が非常なる通過料低減を行はざる限り東洋對北米太西洋岸の航行船舶は翕然として巴奈馬運河に集る事となるべく何れにしても四十七年前後兩大運河の競爭は世界海運界の一大革命的現象たるべしといへり

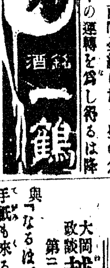
地方通信

▲平壤通信

●平南線開通期 平南間鐵道の開通期を聞くに來る八月末日迄に全線に亘りて線路の敷設を終り建築材料運搬用の滊關車附列車を運轉せしむる筈なるが二十五日迄の工程に就ては平壤を基點として鎭南浦に至る全線延長三十六哩の中既に四哩半に至る間は前記建築材料運搬用滊關車附列車を運轉しつゝあるが如く去日來の降雨の爲め全体に亘り既設線路の基礎に損所を生じたるを以て二十五日より未設線路の延長工事を休止し之が修理に從事しつゝあり又全線に於て架設すべき橋梁工事に就ては既に殆んど其全部を竣工し目下既設橋梁の修繕及び附帶工事等に從事しつゝあり既設線路に對する砂礫の撒布は當地岐陽間十七哩の間は既に其六分通りを終りたるが前記休止中の平壤より鎭南浦に至る二十四哩半以後の線路の敷設に就ては兩三日の後には再び開始する筈なるが平南間全線に於て些の危險なく一般客車の運轉を爲し得るは降雨其他の事情に依り臨時に起るべき障害を見積り來る九月末日頃なるべしと

●平壤農學校成績 平壤農學校にては今回本科生徒五十七名同別科四十名に對する第一學期試驗を執行し去る二十日を以て其成績を查總したるが右は本年五月の開校にて學期としても日猶淺く從て充分の事には至らざるを豫期したるにも不拘比較的好成績なりしと云ふ尙右に就き同校にては慨規に據り同二十一日より暑中休校を爲したるが九月一日より開校する筈なりと

●岐陽溫泉里間 豫て平南觀察道に於て開鑿すべき計畫ある平壤鎭南浦間岐陽停車場より溫泉里に通ずる新道路に就ては曾て道書記官大木氏は親しく實地を踏査し工事の狀況開鑿順序等に就き既に充分の調査を終りたるが右の岐陽より溫泉里へ至るは普通從來九里の行程になり居れるが今同書記官設計に依る時は七里にして而かも其間は殆んど全く平地なれば工事も比較的困難を感ぜざるのみならず近く平南線の開通と共に右の道路にして開通したる曉には平壤溫泉里間は一日の行程にて到るを得べく溫泉里には讀で字の如く有名なる良好の溫泉の湧出するあれば啻に當地方より一般人士の入浴の爲に之れ頻繁に往復するに至るものも生ずべきのみならず水運の便さへ惡からねば近く有名なる平原を包擁する江西方面に於ける物資は勢當地方に輸送せらるゝに至るべく旁大に地方繁榮の基を啓く事となるべしと云ふ尙岐陽溫泉里間に於ける道路開鑿工事に就ては目下平南觀察道より吏員出張し測量中なりと



◎新刊紹介

▲東京經濟雜誌 一五五二號七月二十三日發行（東京々橋區彌左衛門町七同社十二錢）

▲實業之日本 十五號七月十五日發行（東京々橋區南紺屋町一二同社十二錢）

▲日韓實業界 三卷七號七月五日發行（東京々橋區木挽町九の三同社十二錢）

講談 大岡政談 越後傳吉

第三十三回 旭堂南陵講

與『なるほど、さうしてゐの都度にはれ手紙も來るでせうね、申すと惡いけれども便のあるたびにれうめさんから総始れ手紙は參りませうね 傳『イーエ、手紙は一本も來ねえでがす 與『ヘエーイ、そしてれ母さんになつて居るたはやさんからも手紙が來ませぬか 傳『ハア、一本も參らねえでがす 與『ヘエーイ、旦那どん、與兵衛は妙なことをいふやうだが、惡く思はないで聽て下さい 傳『ハイ 與『十九歳に御夫婦になつて、十九歳の年に御出立になつた、申すと惡いが十九や二十歳時分に夫婦になつて、一年や二年の間は互ひに思ひ想ひ合うて、貧乏の中にも樂しい月日を送るんです、また一年ならずにれ前さんが長年かけて江戸へ金儲けに出掛けるといふのも御夫婦の情愛が些と薄い、うれもれ前さんから言ひ出したのではない、叔母さんなり女房さんからのれ話であつた今の口振り、夫婦の情はろんなものぢやアございません男の方で斯なことをして居られぬから江戸へ出て五六年稼ぐといつても、まだ一年ぐらゐの夫婦の情愛ならば、マアそんなことをいはないで故郷に一緒に居てとか、江戸へ行くやうなら私も一緒に連れて行つてたくれ、共に苦勢をしませうといふのが、これが情愛です 傳『ハイ 與『それをば思ひ切つて江戸へ行つて御前さんが稼いて居る、さすれば雨の降につけ風の吹につけ良人のことが氣になつて、便のある度毎に、達者であるか、變りはないかと五月蠅いほど手紙を送るのが、これが當然の情です 傳『ハイ 與『一年もならない夫婦で居ながら、良人が江戸へ立つた六年の間、一本の手紙も寄越さないといふのは些と御夫婦の情が欠けて居るやうに思ひます、ところへまだ十九歳や二十歳十九歳の年にれ立ちになつたとあれば丁度今は二十四歳、夫婦になつて暮すより別れて居る方が長い、旦那どん、旅の留守家にも旅偸盜が附きといふ川柳がございます 傳『ハイ 與『斯ういふことうめが薄情だと思うて居ましたが、能く分りました 與『旦那どん、油斷をしない方が宜うございます、それにまた一ツは彼の旅偸盜の筑波新八といふ奴が、偶爾旦那どんを途中に待ち受けるやうなことはマアない、ないがあつたときには面倒ですから、失禮ながら旦那どん、れ爲を思ふていふこと、惡く取つて下さらぬやう、一度家へ歸つて家の樣子に眼を着けなさい、家の樣子を見た上でないと金子を儲けて來た話しをしないやうに 傳『ハイ 與『折角郞で蓄めた三百兩の金子、旦那どんは八が督う過ぎるから乃公ア斯んなに氣をもむ、金子が畑るやうなことがあつちや



をいふと失禮ぢやが旦那どんは正直一圖の人ナニ古く附合はないでも一寸れ目に掛つて話しをすりやア分かつて居ります、中村屋與兵衛は種々の人に附合ふて來て、その人の起居、振舞ひ、顏顏で、人相見ぢやアございませんが此奴ア人の喰へぬ奴だ、この人は善い人だ、ぐらゐなことは鑑別が着きます能く人を見當てるので、閻魔の與兵衛といはれたくらゐ、正直の胸のれ方は人も皆正直と思ひますから、私が斯んなことをいふと、中村屋は人の惡い奴と思ひなさるだらうが、家に歸つたら萬事のことに氣を注けなさるが宜しうございます 傳『ハイ、有難うございます、イヤさういはれますと私も些とれお氣の毒だ、奥さんのたうめさんの起居振舞ひより、マアれ母さんのれはやさんの模樣、落もなく眼を着けて御覽なさい、多分私は夫婦の道に外れたことがあるぢやらうと思ひます、七人の子をなすとも女に肌をゆるすなといふことがございます 傳『ハイ 與『まんざら金を持たずと歸る譯にも行きますまいから、三百兩の內二百兩だけ私が預かりませう、といふと中村屋が口先で善いことをいつて、旦那どんの金子をば誤魔化すと思はれるのが殘念だから、旦那どん私も中村屋與兵衛、これだけの家臺骨控へた人間、マサカ二百兩の金子で惡顏を買りません、確かな預り證文を書いてれ渡し申します 傳『ハイ

東京電報

▲鳳車の試運轉

今回竣成したる鳳車は昨廿七日午前九時新橋發濱松迄試運轉を行へるに成績良好なり右は今秋陸軍大演習御統裁の爲め岡山縣下に行幸の際御料車に宛てる計畫なり（廿八日）

▲韓太子の消息

韓太子は城崎湯豆腐屋旅館に御滯在中なりしが今廿八日午前十時臨時列車にて城崎驛御發車午後四時岡山御着自由舍旅館に二泊せらる（同上）

▲兩大學の獨立

東北九州兩大學獨立準備に關する當局者の準備は爾來大に進捗し本年度豫算には只最後の三箇月分の同大學總長の俸給額を計上し居れりと（同上）

▲實業家叙位さる

大阪の實業家勳四等田中市兵衛氏危篤の報天聽に達し特旨を以て正六位に叙せられたり（同上）

伯林電報

▲伊國北部暴風雨

伊太利國北部に强大なる暴風雨あり多數の死傷者を出せり（同上）

▲探險先發隊中止

ツエペリン伯北極探險先發隊はスチツツベルゲン、ブレンタイ間の航行不必要として中止せり（同上）

韓皇統監邸に動駕

韓皇には二十九日午前十時十分敦化門出御、罷朝橋、布廛屏門、水標橋、前永禧殿前路より本町五丁目に出で髓町三丁目より日出町を通過し統監官邸を御訪問あり同十一時順路還御相成る筈也

寺内統監の訓示

寺内統監は昨紙所報の如く昨二十八日午前十時統監府及所屬各官衙並に韓政府各部の日本人高等官諸氏を統監府會計課樓上の大廣間に集め一同を引見して大要左の意味の訓示を與へたり

不肖今回大命を畏み統監の要職に就き任に當地に臨みたるに就ては是非諸君を會見し置き度茲に炎暑の折柄懇々御來府を煩はしたる次第なり而して此要職を完ふせんには一に諸君の援助に待たざるべからず就ては日韓兩政府何れの所屬たるを問はず至誠以て職に奉じ忠實以て君國の事に盡されん事を望む

と述べ苟くも家國的觀念を失ふべからざる樣戒飭したり參向者は約三百名也

●平壤水道問題其後

屢々報道したる平壤に於ける汲入夫間題は森辯護士の斡旋により目下內部に救濟方請願中にて其處分の解決を得るまでは市中の共用栓を無料開栓給水する事となり汲水夫の騷擾は一旦平穩に歸したるも共用栓用の汲水鍵は請負販賣人の手許に所有し居り每日一般人の要求に依り開栓し無料給水を爲すにぞ何れも汲入夫の手を俟ずして自ら汲水するに至り殆ど汲水夫より購ふ者なく折角水道事務所が汲水夫等の爲め開放なしたる厚意は水泡に歸し玆に約三百の汲入夫は事實上糊口の途を絕れたるに等しく其の多數は一家を構へず韓人飯屋に寢食し居れるを以て飯屋よりは支拂の見込みなしとて食事を拒絕する狀態にて既に三日間も斷食せる者あり遂に再び不穩の狀を現し販賣人等を殺すべしと唱ふる者あり或は大擧暴動を計る計ありと雖最初森辯護士仲裁の際堅く問題の解決までは如何なる事情あるも妄動せざる樣若し去る行動ありたる場合は遂に收拾すべからざる後悔を招く旨懇々說諭しある事とて猥りに暴擧を爲し難く果ては一同森辯護士事務所に押掛け前記の事情を訴へ此儘にては餓死を免れず何等かの善後策を講じ呉れるか左も無くば吾々は既に死を決し居れるを以て政府の解決を俟ず大擧水道及び販賣人等を襲撃し關係者を鏖殺し平素の鬱憤を晴さん素より今日の場合既に餓死の余儀なき以上暴擧によりてよし官憲の殺戮に遇ふも可なり即ち死は一にして餓死するも又死なり何ぞ官憲を恐れん假令殺戮を免れ囚れて入獄せんか是又厭ふ所に非ず身に產なく職なくして餓死するに勝れりと其勢ひ頗る猖獗なるものあり森辯護士も事態容易ならずとし直ちに水道事務所に赴きたるに三百名の汲水夫は後へに續きて俱に至り喧騷を極めたりしが種々交渉の結果汲水夫等の要求として目下販賣人に下附しある共用栓の鍵を汲水夫側に下附す可し而して汲水夫等に對してのみ無料汲水を許し一般人に對しては赤貧者を除くの外汲水を禁じ汲水夫從來の收益に損害なからしめられたしとの事に水道側に於ても事內部大臣の認可を經ざる可らざるより直に電報を以て內部大臣に交渉し確答を俟つ事とし一同を解散せしめたるが今後の成行如何なるべきや人心恟々たる有樣なり

●賊魁祭應彥の其後

賊魁祭應彥の近狀に就て聞くに彼は部下の一團と共に平南成川郡方面に逼がれ入り同郡化倉分遣所を襲撃すべく同所の南方二里の地點に潛入し居れり次いで祭の部下朴亨元賊十七名を引率して同洞に來襲せるが追擊隊の捜索嚴重なるより何事も爲し得ず逃走せり更に仙岩の北方約四里の河南里に十四五名の一團現はれたるも直に逃走し次いで成川郡方面より江東郡龍岩里經洞に來襲せる賊團ありしが何等の兇害を加へず約二時間休憩して西方へ逃走せり彼等は村田連發騎兵銃又は三十年式歩兵銃等の精銳なる兵器を携へ同類間に其名を呼ばず燕大將或は申大將抔と稱し合へり而して休憩の際村民に對して吾々大韓國獨立の爲めに日本人を驅逐する目的なれば決して同胞に危害を加へ又は金品の掠奪等は爲さゞれば安心せよと揚言し去れり其後二十三日には陽德郡下龍面化樂里に來襲し民家一戸を燒拂ひ多數の金品を掠奪して踪跡を晦ましたるが以上の各行動は孰れも祭の部下にして近來大集團の行動困難なるより漸く分離横行せるものゝ如し而して巨魁祭應彥は十八日陽德郡化村面に現はれ來り大膽にも所在の私立學校に到りて就業中の生徒を集め其率ゆる部下を指揮敎練し之を觀覽せしめて其武勇を誇り更に生徒をして體操を爲さしめ是位進歩し居れば將來吾が部下として用ゐ得べし抔と嘯き悠々として立去れりと其不敵の振舞近頃奇拔の行動なりと云ふ

●總監部の各係主任

警務總監部に於ては今回各課の係主任を左の如く決定したり

△官房理事	警視	永谷隆志
同職員係主任	同	青木戒三
同文書係主任	同	同上
同會計係主任	同	橋本秀平
△機密課々長	中佐	山形閑
機密課在勤	大尉	村井因憲
同高等警察係主任	同	境喜明
同課報係主任	同	國友尙謙
△警務課々長	同	中野有光
同警務係主任	同	谷川金一郎
同民籍係主任	同	趙聲九
同衛生係主任	警部	酒本勇四郎
同警官練習所長	警視	青木戒三
同行政警察係主任	同	亥角仲藏
△保安課々長	同	髙田稔
同消防係主任	同	同上
同司法警察係主任	警部	鷲田長一郎

●統監紀念スタンプ

來る七月三十日京城局に於て統監着任紀念特殊通信日附印を使用し各種引受郵便物に押捺す尙同日附印は一錢五厘以上の郵便切手を貼付又は添付せる郵便物以外の物件に押捺方希望の向に對し同日より八月二日迄毎日午前八時より午後十時迄便宜捺用す

●統監の外交團引見

寺內統監は二十八日午前十時半より十二時の間に於て在京城の英、米、獨、佛、淸、露、白の領事を引見して新任の挨拶を爲し各國領事は從前に倍し親交を望む旨を述べられたりと

●正副統監の歡迎會

三浦理事官、古城民長、和田、山口の四氏發起となり正副統監歡迎會を來る八月三日京城ホテルに於て開催する筈なるが會費は二圓五十錢時間は正午四時とし一刻も遲刻せず最も嚴格に開會すべしと云ふ

●統監軍司令官訪問

寺內統監は二十八日午前八時より各部高等官を引見後午前九時出邸大久保軍司令官を長谷川町の官邸に訪問したり

●明石司令官の訓示

明石憲兵隊司令官は廿八日午前十時憲兵隊司令官及警務總監部の高等官以上を合議室に召集し事務上に關して一場の訓示を爲したり

社會小言

△統監の威信

▲凡そ一國の元首若しくは宰相に採つて、威信の必要なるは何人も否み能はざる處、若し威信にして缺けんか政令行はれず、國政頽廢に及ばん。

▲韓國統監は元首と宰相とを兼ねたるが如き最高の行政長官なり、其發する政令や蒼生の休戚に至大の關係を有す、統監に威信の必要なる素より論を俟たず。

▲三色の統監旗、壯大なる官邸、護衛兵、制服等何れも威信保持に必要ならざるはなし、而かも之等の諸道具を超へて最も必要なるは統監其人の非難なき人格なり。

▲現統監寺內子の人格、余輩今日に於て未だ深くは知らず、然れども聞くが如くんば崇高富嶽に比すべきに非らずとするも、幸に非難を招くべきの缺點を有せざるものゝ如し。

▲人格は夫れにて足れり、只玆に留意すべきは餘り多くの場合に於て訪問者に面談せざるにあり、故伊藤公や曾禰子や文明式開放を標榜し晝夜を別たず客に接す、客統監を見る事屢なれば自然に心安だてを生じ從がつて尊敬の念を薄ふす。

▲昔は叔孫通沛公に向つて帝王の儀禮を說く、沛公の威信保持は漢國統一の大業に關係す。宜敷舊友を原遇すべきを有するを以てなり、今は記者寺內統監に向つて極端なる開放接客を避くべきを勸む、之れ統監の威信を保持し万民をして政令を重んせしめんが爲なり、言や聊か非文明の如きも其實際的なるは受合なり。

●金在龍亦も建白

儒生中の一派にて時局硏究所なるものを設け曩に日韓合邦の急施を曾禰統監に建白せる金在龍は寺內統監の着任を機とし近々同樣の建白書を提出すべし

●警務總監部の忙劇

警務總監部は開廳以來各般の處務頗る多忙を極め毎日五六時頃迄執務し居り

●信夫氏に寄贈品

仁川官民有志者は前理事官信夫淳平氏に對し在住中の功績を永久に記念せんが爲め仁川月尾島畔の絕景に八景歌を彫刻したる銀製花瓶一對を寄贈する筈にて既に調製を終りたるが頗る見事なるものなりと

新統監の披露宴

寺內統監は來る卅日午後四時より內外文武官民千餘名を龍山新館官邸に招待し盛大なる披露宴を開催する事とし廿八日寺內統監並に同夫人多喜子の名を以て夫れ〳〵招待狀を發したり當日酒間の斡旋等には藝妓など一切魔性の者を交へず極めて嚴肅に催する由尙來賓は左記注意ありたしと

一、來賓中人力車又は乘馬の方は新市街三角道路に新設したる目標の所より折れて官邸表門に至らるゝこと

一、當日京城理事廳前より來賓用電車を運轉せしむるに付乘車の方は軍司令部前にて下車正門より裏門に出で官邸の通用門より入らるゝも差支なし 歸路も特別電車を運轉せしむ

一、汽車に依らるゝ方は停車場より軍司令部正門に入り前同樣の順路のこと

一、婦人の方は可成草履を用ゐられたし

一、案內狀は御携帶の上會場入口にて受付掛に示されたし尙電車にて乘車の際にも車掌に示されたし

尙は當日園遊會の掛員は左の如し

委員長石井少將、衛生顧問藤田軍醫監、設備顧問小倉主計監△接待係主任國分參與官、外波大佐、中山書記官、菅野中佐、池邊書記官、藤波通譯官、今村書記官、津野中佐、前間通譯官（樂隊係）本田通譯官、三浦理事官（樂隊主任）竹本少佐、竹內副官△設備係主任 入江書記官、小池主計、最上主計正、白石主計正、西主計、岩井技師、松本主計（軍樂隊指揮）和田軍樂長△食堂係主任 小松參與官、藤枝通譯官△庶務係會計主任 兒玉書記官△模擬店係主任 入江書記官△警備係 村井大尉、荒木憲兵大尉、井原中尉、中野警務官 濱島署長△救護班 村上技師、兒玉技師

各地水害彙報（下）

▲大邱方面 七月十五日夕より十六日に亙る強雨にて慶北星州金泉知禮地方の被害は日人家屋十五韓人家屋六浸水、浸水は二七町同流失五反歩土壁崩二〇星州倭館郵便杜絕他田畑に浸水せる處多く交通杜絕も尠からず

▲全北 本月一二日豪雨による被害は金溝郡にて土砂を被れる田畓約五千十七斗落に及び道路の破損は十面に亙り六百三十六間橋梁流亡若は陷落五流失又は倒壞家屋四戸人畜死傷なし

▲泰仁郡 同豪雨により死者五家屋浸水九二同崩壞全二半一田畑流失七町同浸水八四〇町堤防潰決四六家畜五農作被害面積七町此見積九二〇圓橋流失一五同破損四疊二十石流失

▲臨坡郡 同前豪雨は萬頃江沿岸は折節の滿潮に會し張溢甚大爲めに沿岸家屋十五戸は壞倒橋梁六流失六水畓は南二面內四面間一面等の附近は稻苗の介倒せるものもあり旁退水の遲かりし爲多少の被害は免れざるべし

▲全州郡 同前道路破損は上關面外沙里鶴洞里間及驛陽面王亭里九德里間十五里橋梁流失は上關面西面新里外七所畓田被害面積百十一斗落田八十一斗落挿秧は覆沙埋沒多し住所不明男一人非里慶川附近に漂着

▲公州及鳥致院 七月七日より八日に亙る強雨にて錦江及其支流著く增水汎濫爲めに公州は田畑二百十五斗落浸水橋梁流失九增水一丈鳥致院は浸水家屋七田畑浸水三十町定山は田畑浸水百石落橋梁流失一堤防決潰一道路破損一扶餘は堤防潰決二增水約三丈損害見積一五〇〇圓恩津は田畑浸水五十五町步論山男三女一死田畑浸水二千斗落道路破壞九增水九尺魯城は橋梁流亡二

●木村海軍技師講演

韓國に於ける無線電信設置に關する要務を帶びて海軍技師木村博士は二十七日仁川に入港せし光濟號にて同地に着島航路標識管理所長と共に二十八日入京關稅局と種々なる打合を爲し廿九日午後七時三十分より仁川俱樂部に於て無線電信に關する講演を試み三十日仁川出發南韓方面の無線電信設置豫定地を視察し橫須賀に歸任する豫定なりと

●忠淸南道稻作被害

忠南地方に於ける本年の稻作は挿秧期に於て降雨適順なりし爲め苗は殆んど餘す所なく挿秧し稻苗の不足を告げ近年稀なる好況にして一般に收穫の增大なるを豫期し居たるに本月三日大雨以來は屢々出水して稻田に氾濫し數度の被害は稻苗の流失せし箇所も中々多く其他道路橋梁を破壞し家屋を流失する等慘害頗る多く農民は噬臍を發しつゝあるが尙ほ具體的の被害高は目下取調中なりと云ふ

●鐵嶺丸行衛不明者

鐵嶺丸遭難の行衛不明者は今尙ほ七十九名の多きを算するが右搜索に就ては警備船二隻及大浦丸を派して極力搜索中なるが未だ一箇の死體若くは遺物の漂流せるをも發見せず全く船體と共に葬り去られたるものと認むるを以て遭難海面は潮流頗る急激にして到底潛水器を用ゐて之を調査せんとするも不可能たるより目下其方法に就き講究中

●韓國外國貿易年表

關稅局にては昨年分外國貿易年表を發刊し今回汎く各官衙並に營業者に配付したるが該表には曾に昨年の事項のみならず既往十年又は五ヶ年の計數をも比較計上し且つ卷首に色彩圖表を插入し又た主要計數には千分比例をも揭げたるを以て通覽の便利からざる可と

●農事視察團員復命

曩に東洋拓殖會社主催の日本農事視察團一行に加はりし全羅北道の委員金濬煥の度支部に復命せるを見るに如左

一、到る所官民の懇切丁寧なる指導を感謝す

二、福岡共進會の規模宏大なる而して出品の多數なるは唯々感嘆の外なし

三、兒島灣に於ける藤田組經營の開拓事業を見しに其設備の壯大なるに吃驚したり

四、各地に於ける林業の盛大なるに一驚せり我國に於ても將來林業經營の益々急務なるを感ず云々

●昨年中韓國鑛產額

昨年中の韓國鑛產額左の如し

金及び金鑛	三、八四五、五六八圓
砂金	五四八、三五五
銀	四、〇九六
金銀鑛	四二、八三五
銅鑛	二、七二七
黑鉛	一八一、五三五
鐵鑛	三三七、六一三
石炭	二二五、八六五
合計	五、二七八、五九四

●仁川會議所役員會

仁川商業會議所役員會を今二十九日午後一時より開催し第九回在韓商業會議所聯合會に提出すべき議案其他に就て審議する筈なり

●公州農林學校認可

忠淸南道公州道立農林學校設置の件は本月二十六日付を以て認可せらる

●武田平壤鑛業所長

入京中なりし平壤鑛業所長武田海軍少將は二十七日平壤へ向け出發せり

公人私人

△川原穎悟（春川憲兵分隊長）二十七日入京佐藤旅館へ
△渡邊省三（安東縣領事官補）二十七日安東縣へ
△田川謙吉（陸軍二等獸醫）同釜山へ
△林駒生（農商工部技師）同釜山へ
△進藤初太郎（二等主計）同釜山へ
△赤松時圓（漢城農銀忠州出張所支配人）同忠州へ
△加賀美守（公州農銀主任）同公州へ
△水口隆三（平壤財務局事務官）同歸任

龍山通信（廿八日 支局報）

▲曾て龍山一元老の談として「龍山の繁榮を來すべき第一捷徑は鐵道管理局が其の用地なる同地新舊兩市街中間の空地を日韓人の別なく貸下ぐるに在り云々」と記載せしことありしが右は民團理事者も理由ある言なりとし龍山出張所にては近日中鐵道管理局に出頭し萬一にも聽許せられ得べきものなるや否當局者の意見を叩くつもりなりと

▲龍山榮町の東端に京義線の踏切あり最初は通行を許したりしも一二年以前より柵を構へて通行を遮斷しあり然るに同所は近來東町より新市街一帶の通路となり交通頗ぶる頻繁なるにも拘はらず依然柵を撤せず爲めに通行人は餘々迂回してガードの下を傳らざるべからず而かも其の迂回路たる降雨の日なぞは一面の川となりて老幼の難澁一方ならず因て京城民團龍山出張所にては路切の柵の撤去方を鐵道管理局に交渉する筈なりといふ吾等市民の考量を以てすれば鐵道管理局は左程役所なれども人民の便利を圖りても余り差閊は有るまじ市街の中央を貫通する鐵道線路を敷設するからには假し敷設の當時は市街の中央にあらざりしにもせよ現に市街の中央と成りしからには人民の便利の爲めに踏切を設けて踏切番を附する位の手數と經費は吝まるゝはづなしと思ふ故に吾等は日ならずして便利なる通路を得べし心嬉しさの余り前以て通信に及ぶのなり

▲京城民團に於て今二十九日より撰擧人簿の調製に着手する由にて龍山出張所にては三名の委員を之に當らしむと

▲京城手形交換高▼

七月	金高	枚數
廿八日	八〇、〇三六、六二	一七五

▲治外法權▼

寺內統監が披露會をやるに付き招待狀を發した、其招待の記名に曰く統監子爵寺內正毅同多喜子と、統監府が出來て以來統監が夫妻連名で招待狀を發したのは今度が始めてゞ記者をして何となく嬉しく感ぜしめた▲此頃は內地の諸新聞に亦々半島に關する論議のブムが始まつた、林伯を筆頭に名士と名の付く連中が我れ劣らじと自說の公開に勉めて居る、併し氣の毒な事にはドノ御說を拜見しても一山百文、到底研究の結果とは思はれない▲一夜記者が或クラブに行つたソコに口の達者ソウな連中がビールをナメツゝ統監秘書官の月旦をやりつゝあつた、曰く第一世統監の秘書官古谷は何をさせても出來て、或意味に於ては伊藤公の智囊でもあつたのだ、併し惜しい事には彼には御殿女中式性癖があつて其爲すところが一々統監と部下との意志を阻隔せしめた▲第二世曾禰の秘書官佐竹は大名華族の出であるだけ其爲すところが上品であつた、併し親分がアノ通りの博勢式カゴカキ式であつたから佐竹の長所は役に立たなかつた▲第三世の寺內に於ける兒玉は未だ適不適を云ふには早い、併し彼は團先生に似て酒脫なところがある、其酒脫なところを萬事に應用したら成効疑なしだ▲本田博士曰く半島本年の米作は豐作受合だと、東電報じて曰く農商務當局者は內地の豐作を言明せりと內地が豐作では半島の米はドコに行くか▲此頃は中以上の家庭には蓄音機が備わつて一家團欒の樂みが始まつた、ソレかあらぬか旗亭に於けるラツパ節が餘程下火になつた樣だ。

東京電報

[illegible]葬儀

京城に於て故白國公使ダヌダ[illegible]の葬儀を執行し頗る盛儀なりし（以上二十八日着）

▲曾禰子爵危篤

曾禰子[illegible]

●韓國進歩黨の愚策

寺內統監の[illegible]乘り込みは殆んど[illegible]牛島の朝野を風靡し流石政治狂の韓人も爲めに茫彿自失の觀あり而して新統監の政策如何に就き挿りに氣を揉み心竄を圖らしつゝある態宛然死刑宣告前の被告人を見る如くなるが此際彼の閔泳韓の率ゆる進歩黨は成立以來一向花々敷き活動も爲し得す其存在さへ忘れらるゝの悲境に在るより一つ寺內統監に對し政見を献策し以て其意を迎合せんと企て目下起草中なり其內容に就ては尙は未成品なれば如何に變ずるや知るべからざるも要點は韓民の窮狀を訴へ之を救濟する爲め約五千萬圓の資金を注入せられ大に慈善事業を經營せられん事を望み而して自己等の無爲徒食を擱に揚げたる卽手の熱を吹けるものゝ如し同黨に此類あるを漏れ聞ける政友會及大韓協會は既に三派提携の約あるにも拘ばらず單獨行動を執らんとするは不都合も亦極まれりと敦圍き二派の間に物議を釀し居れりと（[illegible]）

●天氣豫報（自廿八日午後六時至廿九日午後六時）

南風晴

廿七日（華氏） 最高溫度 八二、四 最低溫度 七四、一

東京電報

曾禰子爵危篤

●韓國進歩黨の愚策

寺内統監の堂々たる乘り込みは…牛馬の朝野を風靡し流石政治狂の韓人も爲めに茫然自失の觀あり而して新統監の政策如何に就き頻りに氣を揉み心顯を顯らしつゝある韓宛然死刑宣告前の被告人を見る如くなるが此際彼の國泳國の擧ゆる進歩黨は成立以來一向花々敷き活動も爲し得ず其存在さへ忘れらるゝの悲境に在るより一つ寺内統監に對し政見を獻議し以て其意を迎合せんと企て目下起草中なり其内容に就ては何れ未成品なれば如何に變ずるや知るべからざるも要點は韓民の窮狀を訴へ之を救濟する爲め約五千萬圓の資金を注入せられ大に慈善事業を經營せられん事を望み而して自己等の無爲徒食を攝に掛げたる勝手の絲を吹けるものゝ如し同黨に此議あるを漏れ聞ける政友會及大韓協會は既に三派提携の約わるにも拘ばらず單獨行動を執らんとするは不都合も亦極まれりと敎團き三派の間に物議を醸もし居れりと(京城)

●天氣豫報(自廿八日午後六時 至廿九日午後六時)

南風晴

廿七日(華氏) 最高溫度 八二、四 最低溫度 七四、一

消毒を要する大韓醫院

▽醫官はゴマメの文說べ ▽正副院長揃つて曠職者

醫は仁術なりとは唐人の昔の寢言と言古りて現の醫の多くは藥を售らんが爲めに脈見る術や胸をこつ〳〵叩く術習へるものなれば藥よりは前に勘定書を突き附けて患者が懷を探り金錢出ず迄は藥を渡さぬと云ふ行り方は二度や三度おや逢引かぬ越後娼妓チヨン〳〵格子の妓郎どんが前勸促るに髻へつべし、最も夫れも無理でなし醫者だからとて誰れあつて材料器械衣服飯食無料では寄越さぬ世の中なれば醫師即ち經營者なる私設醫院に在りては無理でない所でないイヤ尤だ尤だ、併し彼の大韓醫院の如き經營者は韓政府にして必ずしも收支相償ふを要せざるものと云ふを得べし然るに事務官は元より醫官迄至る迄算盤玉を腦中に置き應對診療を三四にし施療患者の如きは厄介者視するのみか韓人患者をも多く滿室に口を藉りて門前より追ひ飛ばす夫れも各醫員とも技術優秀ならば少々は忍ぶことも出來れど一二者を除けば或る時期を限り雇聘せられたる間に合せものゝみにして元より高等官たる資格なく近く雇聘せられたる助手連にさへギウ〳〵行らるゝ連中のみ此の間に合せ醫官を當初の計畫に從ひて整理すべき責任ある院長菊池は其の重職を曠ふし久しく病會網に侍して歸らざるは自ら此れを整理する手腕なきを知るからなり彼の鈴木多々見淸水の辭したるは豫定の退却なり近く金井眼科内田耳鼻咽喉科久保敎官の辭職を見んか此れも當初の計畫通りなり多少の暗闘幾分の内訌はあらんも彼等の職は悉く豫定せられたるものなり辭して斷らるゝを承知して雇はれたる頭數醫官だもの親切に診療しても多寡の知れたのが更に不親切なのだから大韓醫院に入院するよりは直ぐに燒場へ送るが勝しとは專ら取沙汰さるゝ所なり而して彼等が如何に算盤玉を腦中に

…所技師故岩田五月瀨氏がパラチブスに罹り療養中技師國枝博氏が村上大韓醫院内科部長と懇意なるものから其の診察を受けんことを勸めしより來診を乞ひたるに村上は此れを眞正チブスと診斷し入院を勸告して已まず當時岩田氏の容體は既に輕快に近きつゝありしを以て一應親友永井松次郎氏は異議を挾みたりしも餘りに熱心なる勸誘を無下に斥けんは入院費を吝むと思はれんとて遂に承諾したるが大韓醫院にては同氏に對し看護婦四人を附したり然るに入院後容態は一變し腸出血を起して危篤に陷り十日程にして同院の手に斃されたり自宅療養にて輕快に赴きつゝありし患者が入院十日後加かも四人の看護婦に圍繞せられて死す或は同院隔離室に於てチブスに感染したるには非ずやと推するものもあり开は兎に角如何に相手が高等官なりとて四人の看護婦を附するとは見かけ取りの本性を語り盡し居るに非ずや而して事務員會計某は妻女の名儀にて最近に醫療機械を納付して莫大なる利益を得居るも副院長高階は之れをすら取締る能はず知らざる眞似して看過し居れりと傳へらる事實ならば同院部内に一大消毒を施すの必要を認めずや

人間愧しき蟻の働

▽畑を耕して播種 ▽一家族で收穫す

▲蟻は世界中到る所に棲息して居る昆虫で而かも其の熱帶と溫帶と又各洲に依つて各其種類を異にして居るから隨分多數の種類に上つて居る▲而して其の種類に依りて形體にも非常に差異があつて亞弗利加等の熱帶に居る蟻になると其の形體も非常に大きく且つ幾百萬と云ふ程の群をなして居て常に人畜に危害を加へて居るものなどもあるが今は只だ各種類を通じて最も面白い一種を記して見やう▲亞米利加のテキサス州に產するボゴノミルメツイスと云ふ一種は蟻の中で最も智識のある種類で實に驚くべき作業をなし居る▲就中最も吾々を驚嘆せしむる事は自分等の食料品を自ら耕作して居る一事である而かも方法たるや實に巧妙で人間も及ばぬ程の立派なものである▲即ち先づ寒になると自分等の棲んで居る穴から半徑各十フキートから十二フキート位づゝ取つた四周の地面の草を取り土を耕して軟にし其を全く平にならし殆んど人間の耕したのと異ならぬ樣に拵へて其に小さな畦を作り其の間に前年から蓄へて置いたアリッシダと云ふ一種の穀類の種を規律正しく播き常に色々の肥料を集めて來ては其の根に施し雜草が少しでも出ようものなら直に取つて一本も餘して置かない▲斯くの如くして夏を過し秋になつて實を結ぶ頃になると一家族總出で其を收穫し其の實だけを穴の中に畜へて置くのである▲彼の小さな虫にして寒になりて種を播けば發芽し秋になれば實を結ぶと云ふ事及び其の收穫時を少しも過たない等は實に驚くべき一種である

金允植氏方雇人の窃盜

▽直ちに引つ捕はる

南部會賢坊司蕃洞金允植氏方雇人李順雨(三五)は二十五日午後十時西部鋤生坊水閣洞二十五統七戶龍在天方の反物一反を窃取し逃走せんとしたるを西部署の巡査補逮捕目下取調中

●部下の妻と通ず　京城音樂隊手長朱昌淳が部下音樂隊手羅永熙の妻高姓女と姦通して羅永熙より有夫姦の告訴を受け目下其の筋の取調を受けつゝある事件を聞くに永熙は薄給の身分にて生活に困難なるより妻高姓女をして西部盤石坊蛤洞にて酒商を營なませつゝある事とて同職者の者も時々飲酒に來るのみか音樂隊手長も自己の長官の事とて何等疑ひも置かず放任し置きたるに此の頃妻高姓女と朱昌淳とが密通しつゝある風評あるより擧動を注意し居りしに怪しき節あるに付或日暇を得て終日氣を付け居りしに果して不貞腐にも姦通し居りたるより其の筋に告訴したるなりとは困つた音樂隊手長どんかな

●死牛の皮を剝ぐ　咸鏡北道鏡城郡羅南趙吉伊は自己の居村なる李明瀚所有の牡牛が狂犬に咬傷せられ爲めに發病の結果本年五月十八日斃死するに到り當該官憲に於て夫れ〳〵消毒の末李明瀚の家宅北方約四十間の場所に埋瘞せしめたり然るに趙は之を知り其の皮を剝取し且つ其の肉を食料に供する目的を以て同月二十三日午後八時頃之を發掘したるに其の肉は既に腐敗し食料に適せざるより其の皮を剝取り自宅に持ち來り賣却せん考へなりしを其の筋に探知せられ咸興地方裁判所に於て笞八十に處せられしを檢事は輕きに失せりとして控訴し爾來京城控訴院に於て審理中の所昨二十八日前判決を取消し懲役一ケ月に處せらる

●太い野郎の處刑　京城西部齊洞崔煥郁は隆熙元年十月中京城南大門外金般三方に於て煥郁の父崔興蕃が黃海道白川郡紙尺面上里に所有せし土地に付現に存在せざる宋鍾懷外二名の名義の舊文券一通外三通の舊文券を僞造し恰も前記各文券の表示したる土地は各署名の人より自已に買受けたるものゝ如く裝ひ金奎萬なる者に金二千四百圓に賣却し之を騙取し其の他右同一手段を以て姜台奎なる者より金四百圓を騙取したる事件は第一審に於て懲役三箇年に處せられ控訴中の所昨廿八日京城控訴院に於て前判決通り言渡さる

▲鼻ご笛　日本人には草笛の名人は隨分あるがハナ笛を吹く人はない尤も子供や婦人には隨分ハナを鳴らす人があるが此れは宴會の席などで鳴らす事は出來ぬのでお菓子を買つて頂戴などか帶が欲しいわとか云ふ時に吹奏して妙に功を奏すものだが其の音は餘り美しいものではない然るにマレイ半島に住んで居るサカイと云ふ人種は別段特長はないが鼻で笛を吹くに至つては世界獨特珍無類で然も極て帶氣や菓子氣や指輪氣を放た頗る美しい音を出す相である

●娼妓の自由廢業　仁川一山樓抱娼妓の文之助と云へば廓内にて評判の手取女なりしが一昨夜仁川署に一通の書面を送り病身にて到底勤めが出來ぬ故自由廢業の上鄉里の大阪に立歸るべければ宜しく賴むとの意味を申遣りの其儘搔き消す如く姿を隱したるが其實可愛い男が出來て勤めが出來ぬ故自由廢業の上假令野の末山の中でも好いた男となれば厭ひませねばと虫の好いてとを吐しつゝ竊かに手に手を取りて驅落したものなりとは廓雀の囀づる處

●韓老人の身投げ　二十八日午前二時頃西部塘坡洞の井戶に身投げせし者ありとの騷ぎに依り後洞巡査派出所巡査補現場に出張直ちに飛び入り之を引き揚げ應急手當を施し蘇生せしめたる上取調べたるに妻子家族なき韓人安鎭敏なる老人にして他に賴る可き者なきを以て自殺を謀りし事判明に付不心得を諭し從弟安駿錫に引渡したりと

●折角勉强なさい　仁川宮町三丁目七福亭內藤つねは抱酌婦を街路より見ゆる場所に座らせし廉に依り同じく新町三丁目四宮蝶は公衆の眼に觸るゝ二階にて裸体に爲り居たるを警官に見咎められ何れも一昨日告發されたりと警官の忠實なる就に驚ねたり

●爆發物を窃取す　平安北道英國金鑛會社に於ては本月十五日より十六日午前四時までの間に於てダイナマイト三百五十發雷管百個導火線二十五把を窃取されたるが暴徒の所爲にあらざるかと目下頻りに搜索中なり

●踏んだ方が惡い　仁川花町孫雲成(四八)は一昨日京町二丁目岡村とみ方飼犬の足を踏みて嚙み附かれしも其筋の手にて檢診の結果狂犬にあらざること判明すとは少々迂濶なり足を踏まれて咬み付かぬ犬があるか

●韓童糞溜に吞る　七月二十六日午後二時半頃東部崇信坊大水踰洞六統一戶大さ約四間の糞溜に柳順一(三つ)なるもの倒落死亡せりと

目と耳

▲歌舞伎座　宮岡天外一座の大奇術は大好評を博し居れるが更に今回角田春子孃の筑前琵琶西洋大花火及び珍藝インゴロース、コレット術等を加へたる上に場代木戶下足とも含めて二十五錢均一と改めたる由なり

▲浪花館　豫報の如く竹本廣八一座の女義太夫にて美しい聲と美しい顏を御覽に供しますると申しますと申す

▲壽座　は源氏節及び女役者の合同劇で少し源氏節が入れば猶ほ結構なり

▲龍山座　曾我の家一座代り番組御祝儀笑ひ福(一場)初旅(一場)無言の夫婦(二場)れしゆん傳兵衞堀川(一場)福と貧棒(三場)

●八月中行事　京城測候所報

祭日	開國紀元節	八月十四日		
	即位禮式日	八月二十七日		
日曜	七、十四、廿一日、廿八日			
節季	立秋	八日、	處暑	廿四日
	晝		夜	
一日	十四時六分		九時五十四分	
十五日	十三時四十分		十時二十分	

▲平民文庫▼

▲少し烈しく雨の降る日本町通りを通行せられた方は降る雨よりは家根から軒と傳ひ落つるのゝ多いのに閉口せられたであらう而して商家は何日も此際店頭の品物を取り片付くるのに忙殺せらるゝであらう▲商に忙殺せらるゝのみでなく手回り兼ねて商品を臺なしにすることも少くなからう斯くの如きは非常に不經濟である▲僕は謹んで各商家の主人に忠告する、即ち其の樋を深くし且つ大きくして家根を洗ふて流るゝ雨水を此の外に逸せしめぬ如にされんことを▲斯くせば道路を破損すること

も少く商品も安全に手數を省くことも出來ると思ふ(鳳雛子)▲先づ尋ねたきは「三猿にて小僧」とある其の三猿の意味にて候次に私の目づた事が婦人侮辱罪となるつて若も裁判所から召喚狀が來たならば女の無い國へ夜逃げする又私しを軟化せしめようと所謂各淫が何ば努力しても駄目よ必ずや「イロン」にして且つ「ナエーミ」なりと歎息する外なかるべし(鹿角生)▲三猿とは橫痃に脈瘡揚梅瘡位に承知されたし(小僧)▲昨日本欄に出た虎一郎と云ふは永樂亭を飲み倒して居るが廿七日朝往復切符を買つて日本へ行つたら歸つたら又亂暴することだらう(恐怖者)▲此の頃の病人の多いことは非常なものだれ醫者さまはニコ〳〵もの、イヤ醫者と坊主と監獄の多忙しいのは碌でない哩(閉口生)▲本町六丁目に名を藤吉郎と云ふかドウダカ知らぬが木下と云ふ藥房には商品とは言ひ條彼のスボイーを千成瓢箪の旗印に擬して店頭に陳列してある呼當年藤吉郎を震駭せしめたる旗印……豐公地下に苦笑やすらん(春部)▲僕は諸淫賣屋君に忠告す、此の頃の如く表の硝子戶へ紙を帖付けては商賣になるまい其所で桁と同じ程の所へ目堰塀を立てゝ入口へ暖簾を下げる式を採用しなさい第一れ前女を此の暑いのに閉ぢ込めて置くのは可哀相だよ(二本筋)▲警務機關の統一後京城に於ける小料理店の取締は實に嚴重を極めて居る、處が下級警察官等は此の嚴重の意味を履き違へて慘酷となつた爲に太平町や長谷川町邊の同業者等は非常に恐怖して居る、又同じ町内でも西部と南部とは大に趣きが違ふ、此間も南部に屬する某派出所の巡査は某酌婦が戶外に足を踏出して居たのを見、靴先きで向ふ脛を蹴飛ばして負傷せしめた、取締もこうなつて來ると人權問題となる、是れは畢竟取締の解釋を誤つて居るからだ、焉ぞ知らん、是等の亂暴巡査や憲兵が一度び制服を取れば彼等酌婦の上得意とは(來見生)

今日の運勢

七月廿九日 舊六月二十二日 八白 先負 乙未 建

△一白●諸事控へ目の事旅行△二黑●散財多き日なり長上の者より戒飭若くは屈伏の●金談婚談新事効なし△三碧●新事旅行凶事を受くるあらん△四綠●論負傷防ぐべし賣買取引機宜を失ふ△五黃●陰鬱なる日物事不得要領に了らん△六白●農事林業に吉△七赤●平靜の日但し親疎のため損害若くは出捐あらん△八白●賣買取引進んで吉相談委囑婚談事業始め開店祝典を擧るに吉△九紫●快欣の日大抵吉縁約上間違あり色情の破

明治四十三年上半期(第卅四期)決算報告

貯蓄預金

金二百三十六万一千二百五十六圓五十二錢一厘 前期繰越高

金三百八十四萬五千二百九十五圓八十五錢九厘 當期預り高

合計金六百二十万六千五百五十二圓三十八錢

內

金三百五十九萬八千七百二十七圓三十九錢 當期拂戻高

差引殘金二百六十万七千八百二十四圓九十九錢 人員五萬九千六百九十七人

右貯蓄預金に對し拂戻保證として左の有價證券を長崎本金庫へ供託しあり

一 公債證書券面 五三〇・七五〇、〇〇〇

一 諸會社及銀行株式券面 八七・〇〇〇、〇〇〇

貸借對照表

資產之部

科目	金額
會社債券	二二・二四四、〇〇〇
公債證書	四五〇・二六五、四八〇
諸株式	三一六・二五七、四二〇
代理店勘定	一、一二九・一九三、四四八
預ケ金勘定	六八五・一〇〇、〇〇〇
貸附金	二一七・一八八、〇〇〇
有價證券買入基金勘定	三・〇〇〇、〇〇〇
金銀有高	一〇・三八九、八一二
合計	二、八三三・六三八、一六〇

負債之部

科目	金額
貯蓄預金	二、六〇七・八二四、九九〇
資本金	一〇〇・〇〇〇、〇〇〇
積立金	七〇・〇〇〇、〇〇〇
當期純益金	五五・八一三、一七〇
合計	二、八三三・六三八、一六〇

損益計算

科目	金額
前期繰越金	七五・七四二、七六二
當期總益金	三七・五三〇、四四三
合計	一一三・二七三、二〇五
內	
當期利拂及諸經費損金	五七・四六〇、〇三五
差引純益金	五五・八一三、一七〇

利益金配當

科目	金額
積立金	五・〇〇〇、〇〇〇
配當金	四・〇〇〇、〇〇〇
後期繰越金	四六・八一三、一七〇
合計	五五・八一三、一七〇

右之通候也

明治四十三年七月

長崎市榮町百七番戶第一號

株式會社 長崎貯蓄銀行

頭取 松田庄三郎

副頭取 永見寛二

取締役 松田英三

支配人 野口孝太郎

前記の各項調査を遂げ其正確なるを保證候也

監查役 高見和平

同 肥塚與八郎